

2025・10・22

<UNPEL GALLERY 開廊 5 周年記念展覧会 開催のお知らせ>

UNPEL GALLERY は 2020 年の開廊以来、日本画の伝統を大切にしながら、若手作家の挑戦を支えてきました。全国の美術大学と連携した「大学日本画展」をはじめ、研究展示や公募展支援などを通して、これまで 65 回、延べ 1074 日の展示を実施し、177 名の作家が、それぞれに日本画の新しい表現を模索してきました。

5 周年を迎える今回の記念展覧会は、長年大切に受け継がれてきた「あいおいニッセイ同和損保 椿絵コレクション」と、若手作家による新作が共鳴。作家たちはコレクションの中から心に響く作品を選び、そこから着想を得て新しい椿を描き出しました。伝統と現代、先達と若き表現者が交わる場として、日本画の息づかいを感じていただける展覧会です。

これまで支えてくださった多くの方々に感謝を込めて。UNPEL GALLERY はこれからも、日本画の未来を見つめながら、新たな表現の可能性を広げていきます。

■展覧会概要

タイトル	UNPEL GALLERY 開廊 5 周年記念「共鳴－椿絵コレクション×現在の作家たち」
会期	2025 年 11 月 29 日（土）～ 12 月 24 日（水） 11:00 ～ 19:00（月曜定休・最終日 17:00 まで）【入場無料】
会場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F
参加作家 （50 音順）	ギャラリーが企画する「大学日本画展」に参加する各大学から推薦された 10 名の作家 秋葉 麻由子（あきば まゆこ） 2019 年 武蔵野美術大学大学院修了 伊藤 歩生（いとう あおい） 名古屋芸術大学大学院在籍 勝又 優（かつまた ゆう） 2024 年 東京藝術大学大学院修了 亀川 果野（かめがわ かの） 2025 年 広島市立大学大学院修了 川端 もくは（かわばた もくは） 2024 年 多摩美術大学大学院修了 北川 由希恵（きたがわ ゆきえ） 2014 年 金沢美術工芸大学大学院修了 竹内 唯可（たけうち ゆいか） 2012 年 女子美術大学大学院修了 土田 翔（つちだ しょう） 2022 年 東北芸術工科大学大学院修了 中嶋 純花（なかじま すみか） 2025 年 京都芸術大学大学院修了 宮下 舞香（みやした まいか） 2025 年 九州産業大学大学院修了
展覧会内容	作家が「あいおいニッセイ同和損保 椿絵コレクション」から選定した椿絵と、そこから着想を得て描いた新作の椿絵を共に展示 新作 10 作品から主催者の審査により選ばれた 3 作品へ「大賞」「優秀賞」「準優秀賞」を授与
主催	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
企画	UNPEL GALLERY

<ご連絡・お問い合わせ先>

ギャラリーオフィス 11:00～19:00 月曜定休（担当 / 井上・渡邊）

E-mail / tsubaki@unpel.gallery <https://unpel.gallery/>

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781 * お問い合わせは E-mail にてお願いします

■ 審査概評

この展覧会のキーワードを「共鳴」としたのは、先達の描いた「椿絵」から「いいなあ」と思ったものを元に、それを受け止めた若き日本画家たちが各々の造形思考に引き付けて、憧れや影響だけでは成立しない明確なモチベーションをもって制作してもらおうという意図からです。ですから、その「共鳴」の結果として生み出された作品は、いいなあと思った元の絵とはかなり異なっているはずで、その異なった部分を面白がろう、というのが審査のスタンスです。

選び取った主体は若き画家たちの方ですから、先達の名画のある部分は選び取るかもしれないし、ある部分はまったく興味をもたないかもしれない。それでいいのです。むしろそこで生じる「違い」の方が面白い。その「違い」こそが、それぞれの画家たちの拠って立つ芸術世界の文脈の違いであると思います。従って、審査にあたっては、新たに生まれた作品と元の絵との関係に気をつけながら、それを描いた画家のモチベーションはどこにあったのだろうかということを注意深く読み解いていきました。

結果、暗く沈む中に光明を放つ香月泰男《白椿》の陰影を切り刻むような筆法で唸るようなビートに変じた土田翔さんの《Segment》を大賞とし、優秀賞には堅山南風の絵から静謐な創造性をふくらませた北川由希恵さんの《散り集う》、準優秀賞に前田青邨の絵がもつ余白の喚起力を虚空の生命力に昇華した中嶋純花さんの《花は落ちても》を選定しました。また、一見表面的に似ているように見える他の作品にも、すごく面白い工夫が凝らされていたことを言い添えておきます。

審査員代表：野地耕一郎

■受賞作家プロフィール

<大賞>

土田 翔（つちだ しょう）

福島県出身

2022 年 東北芸術工科大学大学院修士課程芸術文化専攻複合芸術領域修了

<受賞歴>

2018 年 第 72 回福島県総合美術展覧会 福島県美術賞

2019 年 第 73 回福島県総合美術展覧会入選

第 82 回河北美術展 新人奨励賞

第 40 期国際瀧富士美術賞 特別賞

2020 年 アートアワードトーキョー丸の内 2020 小山登美夫賞

2021 年 美術新人賞デビュー2021 入選

群馬青年ビエンナーレ 2021 入選

第 8 回トリエンナーレ豊橋星野真吾賞展 入選

2022 年 アートアワードトーキョー丸の内 2022 後藤繁雄賞

第 76 回福島県総合美術展覧会 佳作 福島県文化スポーツ局長賞

2023 年 第 77 回福島県総合美術展覧会 入選

2024 年 第 78 回福島県総合美術展覧会 入選

神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond 公募大賞 奨励賞

第 9 回トリエンナーレ豊橋星野真吾賞展 入選



「Segment」

板、岩絵具、胡粉、墨、モルタル、
箔、樹脂/杉板

【選定椿絵 – 香月泰男「白椿」へのコメント】

香月の作品に見られるざらついた素材感、まるで触覚で感じ取れるような対象への思いに共鳴したいと思いました。画面の手触り感、私の作品にとって重要な要素です。

私は実感を持って表現できる素材を選択して制作します。香月作品の焼き物のような風合いや、マチエール、その力強さに、挑戦的なエネルギーを感じ、私なりの対象への向き合い方で、実感を得ながらその痕跡を画面に刻みたいという思いが湧きました。そんな思いを実際に絵画として隣で感じてみたいと思いました。

<優秀賞>**北川 由希恵（きたがわ ゆきえ）**

石川県出身

2014 年 金沢美術工芸大学修士課程絵画専攻修了

<受賞歴>

2016 年 第 1 回松柏日本画展 入賞

2019 年 改組新第 6 回日展 特選

2022 年 第 9 回郷さくら美術館桜花賞展 奨励賞

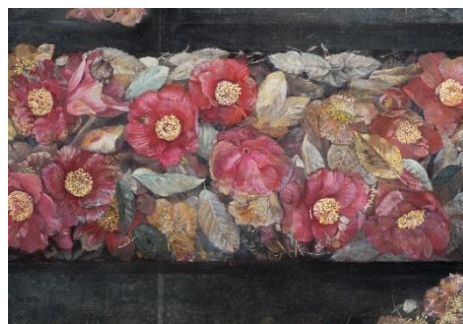
2023 年 第 79 回現代美術展 美術文化準大賞

2024 年 第 11 回日展 特選

**【選定椿絵 – 堅山南風「古代壺と花」へのコメント】**

椿が無造作に生けられていることや優しい色彩から和やかな空気を感じます。

気取らない自然な椿が心に残りました。



「散り集う」

岩絵具、銀箔、墨、胡粉/吉祥麻紙

<準優秀賞>**中嶋 純花（なかじま すみか）**

京都府出身

2025 年 京都芸術大学大学院美術専攻美術工芸領域日本画分野修了

<受賞歴>

2023 年 2023 年度 京都芸術大学卒業展優秀賞

第 78 回春の院展 初入選

再興第 108 回院展 初入選

2024 年 第 79 回春の院展 入選

再興第 109 回院展 入選

2025 年 第 80 回春の院展 奨励賞

佐川美術館栗和田栄一賞 受賞

再興第 110 回院展 入選

日本美術院 院友 推挙



「花は落ちてても」

岩絵具、顔料、銀箔、和紙、クレヨン、色鉛筆/天竺綿布

【選定椿絵 – 前田青邨「椿」へのコメント】

前田青邨の作品の魅力は、大胆な余白にあると考えています。

「椿」の余白は、単なる構成の面白さではなく、時間や場所を特定していないからこそ、省略された背景に対して想像する景色は鑑賞者へ委ねられています。今回私は、前田青邨の「椿」から学び、余白を使った椿のある風景を目指したいと考え、この作品を選びました。